

ベトナム・フエ市での防災教育支援 「フエ市子ども防災サミット」を開催

西条市は、当市独自の「12歳教育（防災教育）」をフエ市に紹介し、現地に合った防災教育プログラムの開発・実践を支援するJICA（国際協力機構）の草の根技術協力プロジェクトを実施しています。

このプロジェクトでは、モデル校のチュー・バン・アン中学校とファン・サオ・ナム中学校で、子どもたちがタウンウォッチングやハザードマップ作りなどの防災学習に取り組んできました。

今年度プロジェクトが最終年度を迎えることから、子どもたちの防災学習の成果をベトナム全土へ広く発信するため、去る8月6日にフエ市で「フエ市子ども防災サミット」を開催しました。

また、日本ベトナム外交関係樹立40周年となる今年は「日越友好年」に定められており、今回のサミットは日越友好年実行委員会（委員長・谷崎泰明在ベトナム特命全権大使）から「日越友好40周年記念事業」にも認定されました。



▲「日越友好年」のロゴマーク

フエ市の子どもたちが 学習成果を発表

フエ市文化センターで開催されたサミットには、トゥア・ティエン・フエ省やフエ市の人民委員会および教育訓練局の関係者をはじめ、子どもたちの保護者、フエ市内の学校22校の教員など約650人が出席。当市からも12歳教育担当の教員や消防団員、防災士等の訪問団メンバー14人が出席しました。

サミットの開幕にあたり、子どもたちによる歌や踊りなどのパフォーマンスが披露された後、フエ市のタイン副委員長（副市長）が挨拶。タイン副委員長は「約3年間にわたり、



▲子どもたちによる華麗なパフォーマンス



▲挨拶を述べる副委員長

両市の教員等は多くの交流する機会を持ち、学習してきた。私たちにあって、このプロジェクトは学校の生徒だけでなく、地域にとっても有意義なものであると感じている」と述べました。

JICAベトナム事務所の清水次長からも「このプロジェクトを通じ

て防災教育の理念がフエ市に伝わり、防災意識が高まることを期待している。また、防災教育がフエ市内に広がり、継続されることも期待している」との挨拶がなされました。

さらに、青野市長と当市の子どもたちからのビデオメッセージも上映され、サミットに出席した現地の子どもたちやその保護者等の皆さんは平成16年の台風21号災害の様子も交えた映像に見入っていました。

続いて各モデル校の子どもたちのグループが「台風」や「洪水」「火事」などをテーマとして取り組んできた学習成果を、スライドの上映や劇で発表しました。

大勢の出席者を前に子どもたちは、タウンウォッチングで見つけた危険な場所や自ら考えた防災対策、災害発生のメカニズムなどを元気よく、はきはきと発表していました。

また、劇ではコミカルな演技を交えて「危険が迫っているときは逃げることが大切」「防災対策は環境を守るが一番」というメッセージを伝えていました。

成果発表を通じて、現地の子どもたちのプレゼンテーション力の高さ、そして防災学習に対する熱意も伝わったサミットは、盛況の内に閉幕しました。